



元日本プロボクシング協会 袴田巖支援委員会委員長

新田 涉世

「まっ白に……燃えつきた……」。漫画『あしたのジョー』のセリフに憧れ、ボクシング一筋に生きてきた

「負け」に負けるな

「検察はタオルを投げろ!」。元プロボクサーの死刑囚・袴田巖の冤罪事件「袴田事件」の攻防の中、ボクシング界を引っ張って支援を続けた一人の男がいた。当時、獄中にいた袴田とも奇跡的に面会を果たした。元東洋太平洋王者はなぜ、支援活動に突き動かされたのか。

文〓笠井千晶 写真〓松永卓也

ジリジリとした強い西日が、静岡地裁の白い建物に照り付けていた。午後4時過ぎ、遂にその瞬間が訪れる。

「袴田巖さんに無罪判決! 証拠ねつ造を認める」2024年9月26日。死刑囚で元ボクサーの袴田巖に再審無罪が言い渡された。強盗殺人などの容疑で逮捕され58年。「開かずの扉」とも言われるやり直しの裁判を経て、死刑囚の無罪が認められたのは、35年ぶり戦後5例目のことだった。

「ボクシング協会のみんなで『ウオー!!』って、雄叫びを上げてましたね」

駆けつけた新田渉世(58)の目にも、真っ白な旗に書かれた「無罪」の文字が焼き付けられた。ボクシング界挙げての支援が、ようやく結実した瞬間だった。

新田を初めて取材したのは、支援活動を始めた06年。当時「袴田事件」は、弁護団が裁判のやり直し(再審請求)を求めるもことごとく棄却。世間からも忘れられた存在だった。そんな中、新田は、向こう見ずにも支援運動に飛び込んだのだ。当時、袴田は獄中にいた。死刑囚の面会は厳しく制限され、家族と弁護士以外は限られた人しか面会を許されない。しかしそんなことには構わず、新田は繰り返し東京拘置所に足を運んだ。

すると翌07年、100年ぶりの法改正により面

会制限が緩和された。この時、袴田との面会を新たに認められた唯一の支援者が、新田だった。「ある時、『新田さんだけ面会できます』って言われて。面会室の奥の方から袴田さんが出てきたんです。初めてだし、心の準備もなかったし……」

なぜ人は生きるのか?

魂の燃焼が人生の目標に

ボクシング関係者としては27年ぶりの獄中面会だった。長い拘禁生活の影響で意思疎通が難しい袴田だが、ボクシングの会話だけは噛み合った。

ところがまもなく、最高裁が袴田の再審請求を棄却し、第一次再審が終結する。ある支援集会で、新田は聴衆に向かってこう呼びかけた。

「ボクシングでも、ダウンしたり試合に負けたりします。でも何度でも立ち上がり、何回負けても諦めない。その負けに絶対負けない。『負けに負けるな』の言葉を胸に闘っていきたいと思います!」

1966年に袴田が容疑をかけられた殺人事件の翌年、新田は生を受けた。渉世という名前は、「世界と涉りあっていけ」という願いを込め、父が名付けた。幼い頃から運動も勉強も得意で友達も多かったが、次第に漠然とした不安にかられるよう

になる。「なぜ人は生きるのか?」。そんなことばかり考えるようになった。

ボクシングとの出会いはふいに訪れた。小学6年の冬、バザーで手にした一冊の古本が漫画『あしたのジョー』だった。主人公の矢吹丈が宿敵との激闘の末、「まっ白に……燃えつきた……」まっ白な灰に……」とつぶやく。この時以来、魂の燃焼が、新田の人生の目標となった。

「ボクサーになる」。そう決意した新田少年は、布団を丸めたサンドバッグを吊るして拳を鍛え、手足には鉛の入ったサポーター。将来の減量に備え胃袋を小さくしようと、毎日弁当を残した。

高校に入り、ボクシング部がないことを知ると、入学翌日から「ボクシング同好会やりませんか」とプラカードを掲げて校内に立ち始めた。その姿を見ていたのが、同級生の東原良勝だ。

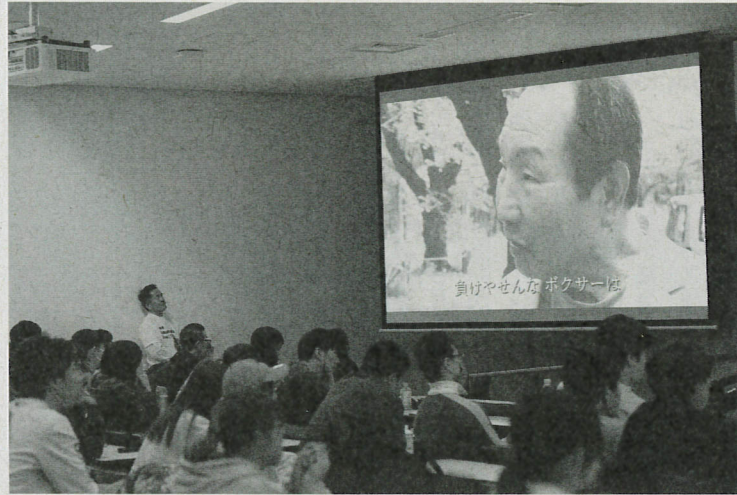
「変わりもん。でもすごい人気者で人が離れない。高校ん時から、『あしたのジョー』みたいに『俺は25歳で死ぬ』って言ってる。だから本気で燃え尽きるっていうことを、本当にしようと思ってた」

同好会の話は先生に却下された。それでも新田は、自分の「夢」をことあるごとに口にしていた。「彼はプロボクサーじゃなくて、『世界チャンピオンになる』ってずっと言ってる。それで、高校時代にあだ名が『チャンピオン』ですよ」

3年生になると、周囲と同じく新田も自然な流れで受験勉強を始め、横浜国立大学を受験する。そして共通1次試験が終わると、門を叩いたのが東京・下北沢の金子ボクシングジムだった。

入門から1年4カ月後、87年にプロデビューを飾った新田は、大学に通いながら神奈川県秦野市の実家を出て、金子ジムの合宿所で生活するようになる。新田の妻・千春は、練習生として同じジムに通っていた。7歳年上の元演歌歌手という経歴で、小柄だがエアロビクスのインストラクターをしていてボディビルにも励んでいた。

新田の方は密かに想いを寄せていた。意を決し



大学院生として授業に登壇し、「袴田事件」を語る。長年の支援活動を通じて、「ボクシングには強いものに立ち向かう力、そして相手を思いやる力が備わっている」と感じた

て誘ったデートの2日後、いきなり結婚を申し込んだ。こうして半年後、新田が大学3年の時に二人は結婚式を挙げた。まもなく長男が誕生し、後に長女を授かる。新田はことあるごとに「国立大生で妻子持ち、異色のボクサー」と呼ばれたが、ファイトマネーだけでは足りず、バイト代に千春の収入を合わせ家計をやりくりした。

負け組に降りてきた言葉 初の国立大卒の王者に

当時、新田を指導していたのが、元世界2階級王者で韓国の国民的英雄と呼ばれた洪秀煥だ。

「ニッタのファーストインプレッションは根性！あとは努力。そしてベリスマートね」

新田は、洪の指導を素直によく聞き、誰よりも貪欲に学びたいという情熱を持った選手だった。プロ6年目を迎えた92年、新田は大きな試練に見舞われる。フライ級で2度、日本タイトル戦に敗れてしまった。翌年には引き分けを挟んで連敗し、引退も覚悟した。26歳だった。「家族も食わせられないのに、ボクシングを続けないのか？」そんな葛藤にも苦しんでいた。隣には2人の夢を描く千春の存在があった。

「試合はリングサイドで見ました。おんぶして、手繋いで、子ども2人連れて行くんですけど、こ

っちも毎回試合ごとに命削られるんですよ。私たちの目標は『世界チャンピオンになる』っていうことで、だから我慢できたと思うんです。いずれチャンピオンになるんだもん！みたいな（笑）」

休養を経て年が明けた94年、新田の姿は再びリング上にあった。会場に響き渡る、千春の声援。

「行けえ、新田あ！！」

激闘の末、強打者のフィリピン人選手を2ラウンドKOに下すと、リングで雄叫びを上げた。その後、リングネームを「新田勝世」と改める。「勝ち」に拘る姿勢を示したかった。そんな新田を、洪はトレーナーとして温かく見守っていた。

「結局ボクシングは人生とおんなじですね。ボクシング人の世界は、打ち合って、殴り殴られて、減量に苦しんで。だから人生の苦難が来てもなんでもない。We don't know how to give up.（ギブアップする方法を知らないんだから）」

しかし、バンタム級に転向して挑んだ3度目の日本タイトル戦で判定負け。身も心も打ちのめされ、経済的にも負け組だった新田。

「結局ずっとチャンピオンにもなれず、全然貧乏で将来も見えないような中で、ヒューって降りてきたんですよ、言葉が。『負けに負けるな』っていう。負けることは誰にでもある。だから、そのことには負けちゃダメだよっていう」

そして5カ月後、日本タイトルを飛び越えて、東洋太平洋王者に挑戦するチャンスが舞い込む。『あしたのジョー』のような己の魂の燃焼よりも、今は家族のために「この試合だけは死んでも勝つ！」と誓いを立てた。

「新田選手！東洋太平洋のベルトを手にしました！」。韓国人の王者を相手に7回KO勝ち。10年がかりで手にした悲願のベルトだった。

翌年、初防衛に失敗し引退を選んだ新田は、30



無罪1周年の集会で、袴田の姉・秀子に声をかける。2人は20年来的の付き合いだ。「新田さんは事件のことを世界に訴えてくれた」。そう言って、秀子はいつも新田への感謝の言葉を口にする

ジムで袴田事件の勉強会 世界に人道支援を訴える

その時、新田は接客する金子の隣に座り、客によって変える言葉遣いや細かな所作の一つ一つを覚えていった。金子はその姿をよく覚えている。「仕事終わると毎日1人でね、大学ノートに全部書いてましたよ」

働き始めて半年、新田から突然「アメリカに行く」と打ち明けられた。そして店での最終日。閉店間際の店内は、新田に会いたい客で溢れ返った。こうして新田は、家族4人で米サンフランシスコへと旅立った。現地では、英語を实地で学びながら、様々なボクシング選手と交流し、自身のトレーニングを再開するなど次への模索を続けた。千春はいう。

「先が見えないから面白かったです（笑）。どっち

に舵を切って、どっちの方向に進んでいくのか？でももう、そっちに行くしかない。すでに乗っちゃってる船なんぞ」

しかし翌年には、ビザの問題で帰国。以後3年間のサラリーマン生活を経験する。

03年、35歳を迎えた新田はサラリーマンを辞め、長年暮らした川崎市にボクシングジムを開いた。開業から1年余り経った頃、ジムに通う1人の練習生がこんな話を持ちかけてきた。

「新田会長、『袴田事件』って知ってますか？」

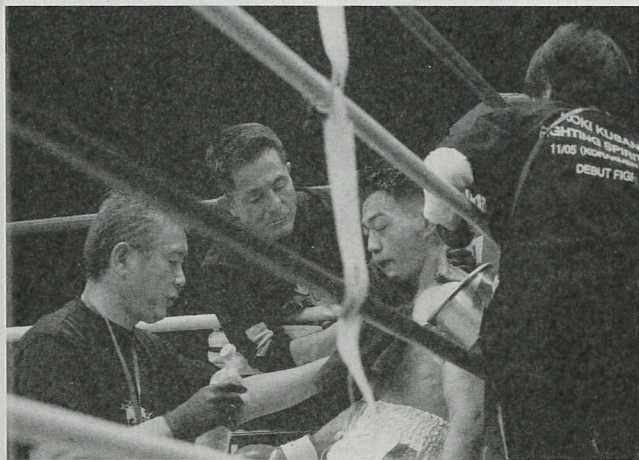
その後06年には、東京の「袴田事件」支援団体のメンバーを招き、ジム内で勉強会を開いた。

「ボクサーへの偏見っていうのが、やっぱり大きいじゃないですか。こんなことは絶対許されちゃいけないと、そういう凄惨なエンジンが回り始めちゃって。本気で動けば1年以内とかで絶対解決できると思ってスタートしたんです」

東京拘置所に収監されている元プロボクサーは、明日にも死刑を執行されるかもしれない。新田の魂の燃焼は、新たな対象へと向かっていた。日本プロボクシング協会は、10年ほど前に支援活動を行っていた



経営するボクシングジムの方針は「地域密着」。地元イベントに出展し、親子連れがミット打ち体験に訪れる。自身が現役時代リングに立っていた後楽園ホールで、今は若い選手たちのセコンドにつく



が、結果が出ぬまま活動は立ち消えとなっていた。「迷惑はかけません」。そう言って、なんとか了承を取り付けると、協会内に袴田支援委員会を発足させた。

ところが活動を始めて2年後の08年、最高裁が袴田の再審請求を棄却し、第一次再審が終結する。この時、支援活動は最大のピンチを迎える。

「もう一回協力してくれ」って、どうやって言えはいいんだろう？って。再審、再審って言うたのに、それが棄却されちゃった訳だから……」

すると新田は、当時開催されていた洞爺湖サミットに目を付ける。日本の裁判がダメなら、世界に人道支援を訴えようと各国大使館を訪ねた。その結果、支援活動は息を吹き返した。

続く第二次再審請求では、新たにDNA鑑定が採用される。審理が佳境を迎える中で、新田の姿はタイのバンコクにあった。ボクシング世界4大タイトルの一つ、WBC（世界ボクシング評議会）の総会で署名活動を行っていた。世界のボクシング関係者に「袴田事件」への支援を訴えた。

こうして14年、遂に「袴田事件」が大きく動いた。静岡地裁がDNA鑑定などを根拠に初の再審開始を決定し、獄中の袴田が釈放されたのだ。47年7カ月ぶりの釈放というニュースは、国内のみならず海外メディアを通じて世界を駆け巡った。

ボクシング界の支援活動は実にユニークだった。事件の起きた静岡へ向かうバスツアーを企画し、支援メッセージ入りのピンバッジの配布、支援動画の公開や支援グッズの制作など、斬新な企画を次々に打ち出した。中でも裁判所や検察庁前にチャンピオンたちが集結する光景は壮観だった。運動の熱が冷めないよう、話題作りに心を砕いた。新田の呼びかけに応じ、袴田が獄中にいたところから支援委員会で活動を共にしてきたのが、元日本スーパーバンタム級王者の真部豊だ。

た。無罪が決まった訳ではない死刑囚が釈放されたのは、前代未聞のことだった。釈放から1カ月後、都内の病院に入院していた袴田を見舞った。屋外のベンチに並んで腰をかける。もう、2人を隔てるアクリル板はここにもない。新田がボクシンググローブを差し出すと、袴田がそれを両手にはめた。

「ナックルを当ててる者が勝つんだね。常にナックルで打つことを研究してれば、負けやせん。必ずノックアウトで勝てるボクサーなんだね」

袴田の話に、何度も頷く新田。ボクシング談議にしばしば花が咲いた。この釈放を受けてWBCは、袴田に「世界名誉王者ベルト」の授与を決めた。

ボクシングの意味と価値 他者の痛みを理解できる

ボクシング界の支援活動は実にユニークだった。事件の起きた静岡へ向かうバスツアーを企画し、支援メッセージ入りのピンバッジの配布、支援動画の公開や支援グッズの制作など、斬新な企画を次々に打ち出した。中でも裁判所や検察庁前にチャンピオンたちが集結する光景は壮観だった。運動の熱が冷めないよう、話題作りに心を砕いた。新田の呼びかけに応じ、袴田が獄中にいたところから支援委員会で活動を共にしてきたのが、元日本スーパーバンタム級王者の真部豊だ。

「新しい企画のアイデアは、みんなで出し合っていました。新田会長は、何を言っても受け止めてくれるし、本当に真面目でルーティンを守る人。毎月必ず、レジユメをもとに委員会で話し合っていて、議事録も毎回作っていました」

途中から新たなメンバーも加えて10年以上、毎



「生きる意味ってなんだろう？というのをね、小さい頃から考えてた。そして『あしたのジョー』を読むわけで、そこが新田さんのベースになっている。どうしても聞わなければいけない。トゲッのような何かをお持ちだな。大学院での研究は、彼のミッションだと思います」

ボクサーたちはなぜ、支援活動に突き動かされたのか？そこにはボクシングという競技特有の痛みが関係していると新田はいう。

「リングの中で知る痛みや苦しみが、かつていうものを、社会に拡大していきけるのではないかと。ボクサーは自分が痛みを知っているから、他者の痛みや苦しみを理解できるし、他者に優しくできる」

ボクシングの意味と価値を問い直し、学術的に立証することを目指す。他の誰にもできない形で、ボクシングを自分なりに追い求める。

そして新田の歩みは、さらなる魂の燃焼を目指し、「まっ白に燃えつきる」まで続いていく。（文中敬称略）

月続けた会合は150回を超えた。

一方で、釈放された袴田は無罪になったわけではなく、死刑囚のまま日常を送っていた。そんな中、18年には東京高裁が「再審開始を取り消す」と決定を出した。袴田が再収監される可能性まで取り沙汰されるなど、一進一退の攻防が続く。

「検察はタオルを投げろ！」

こう訴えて支援を続けたボクシング界。すると最高裁は東京高裁の決定に異議を唱え、審理を差し戻す。そこで東京高裁は、改めて「再審開始」

を見届けた「袴田事件」に迫ろうとしている。同大教授の松尾哲矢は、進学を後押しした一人だ。

笠井千晶

1974年、山梨県生まれ。元テレビ局報道記者、ドキュメンタリー監督。2019年、第26回小学館ノンフィクション大賞受賞。24年に映画『拳（けん）と祈り（いのり） 袴田事件の生涯』を劇場公開。



妻・千春と37回目の結婚記念日を祝う。現役時代は2人でチャンピオンの夢を追いかけ、今はジム経営に選手の育成とボクシング漬けの日々を支え合う関係

■にっく・しょうせい

- 1967年 「袴田事件」発生の翌年、東京都日野市に生まれる。2人兄弟の長男。
- 79年 漫画『あしたのジョー』と出会い、ボクシングに目覚める。将来ボクサーになると決意する。
- 86年 高校卒業後、金子ボクシングジム入門。横浜国立大学教育学部体育専攻に入学。
- 88年 同ジムに通う千春と大学3年で結婚。1男1女を授かる。「子連れの国立大生で異色のボクサー」と呼ばれる。
- 92年 フライ級で日本タイトルに2度挑戦するも失敗。
- 96年 バンタム級で3度目の日本タイトルに挑戦し失敗。5カ月後に東洋太平洋王者に挑戦し、ベルトを奪取。OPBF東洋太平洋バンタム級チャンピオンとなり、「初の国立大卒業王者」として話題になる。
- 97年 引退を発表。翌年、米サンフランシスコに一家4人で移住。
- 99年 アメリカから帰国。以後3年間、サラリーマン生活を送る。
- 2003年 神奈川県川崎市に新田ボクシングジムを開設（のちに川崎新田ボクシングジムに改称）。「地域密着」を掲げ、後進の育成に携わる。
- 06年 元プロボクサーの死刑囚・袴田の冤罪事件「袴田事件」について、支援活動を開始。
- 07年 日本プロボクシング協会に袴田支援委員会を設置。
- 14年 静岡地裁が初の「再審開始」を決定。釈放された袴田に、WBCが世界名誉王者ベルトを授与。
- 18年 東京高裁が袴田の「再審開始」を取り消す」と決定する。
- 20年 最高裁が東京高裁の決定を取り消し、審理を東京高裁に差し戻す。
- 23年 東京高裁の「再審開始」が確定。立教大学大学院の修士課程に入学。
- 24年 静岡地裁での再審公判で、袴田に「再審無罪」の判決。事件発生から58年で無罪を勝ち取る。
- 25年 立教大学大学院の博士課程に進学。「袴田事件」の支援活動をテーマに、ボクシングの意味と価値を学術的に立証することを目指している。